



Alter Weekly Order Catalogue

# ほんものを たべよう A

2025.7月3週号

提出日				
7/ 8	火	水	木	金
9	9	10	11	
配達日				
7/ 15	火	水	木	金
16	16	17	18	
翌々週分配達日				
7/ 22	火	水	木	金
23	23	24	25	

オルターの提案

- 本当に安全な食べものを手渡すために日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

## 果物

# 無農薬果樹栽培で、地域の農業、自然、くらしを守りたい

ブドウ、イチゴ、マンゴーなど

## 杉並スマートファームamit

文責 西川 榮郎(オルター代表)

### 貴重な無農薬の果物

茨城県石岡市杉並にある「杉並スマートファームamit」の中村英治さんは、農薬や化学肥料を使わず、ブドウ、イチゴ、マンゴーなど有機農業が難しい果物を栽培しています。

栽培の大きな特徴は、果樹ボックス栽培です。いわば大きな植木鉢に栽培作物別専用培土を使用することで、果実の高品質化を可能にし、また省力化を可能にし、年齢を問わず栽培に参加できます。

### 農薬を使わない工夫

農薬を使わないかわりに、防除には重曹や木酢液を使っています。コガネムシの防虫には自作のコガネムシトラップ(フェロモンと虫の好きな光を利用)で対策しています。種なしブドウに対する「ジベレリン処理」も行っていません。

いちごの受粉にはミツバチをハウス内に放し、その力を借りています。



ブドウ圃場、クラフト紙使用



### ミネラル、アミノ酸、乳酸菌、酵母菌、ナノバブル水素水で果樹を元気に

ボックス栽培用の培土は、バージン山土をベースに飲料工場の残渣(お茶、コーヒー※オルター暫定)を再利用し、堆肥にしたものです。肥料として有明海水(ミネラルとして)、米ぬか、なたね油粕などを混ぜて加水分解した「ライフアップ」(有機JAS適合肥料)を使います。嫌気性菌のラクトバチルス(乳酸桿菌)や酵母菌が豊富に含まれています。

灌水(水やり)や葉面散布には地下水から作った「ナノバブル水素水」を使用しています。根付きが良くなり、栄養が吸収されやすくなるうえ、植物本来の力を最大限に引き出すことで病気に強くなり、栄養豊富な作物の収穫ができます。

オルターからご紹介した「農業用マグマン」や「シグマ菌ボカシ」もさっそくテストされています。

### 楽しみな果物

杉並スマートファームの果物たちは、いろんな品種が実際に楽しめます。

ブドウは16品種栽培されています。クイーンセブン、サニールージュ、天晴、天山、ヌーベルローズ、ブラックフィンガー、クイーンニーナ、バイオレットキング、昭平紅、シャインマスカット、BKシードレス、マイハート、グロースクローネ、藤穂、ナガノパープル、ジュエルマスカットです。8月上旬~9月下旬頃出荷できます。

イチゴは2品種です。すずおよひやよい姫です。

### 杉並スマートファームの 無農薬果物

#### ●栽培品目

ブドウ 16 品種

クイーンセブン、サニールージュ、天晴、天山、ヌーベルローズ、ブラックフィンガー、クイーンニーナ、バイオレットキング、昭平紅、シャインマスカット、BKシードレス、マイハート、グロースクローネ、藤穂、ナガノパープル、ジュエルマスカット

イチゴ 2 品種

すず、やよい姫

マンゴー 3 品種

アーウィン、キンミツ、キーツ

#### ●防除

重曹

木酢液

コガネムシトラップ(フェロモンと光)

#### ●肥料

「花咲き実なり」

バージン山土をベースに飲料工場の残渣

(お茶、コーヒー)を再利用し堆肥化

「ライフアップ」有機JAS適合肥料

有明海水(ミネラルとして)、米ぬか、なたね油粕

を加水分解して、発酵(ラクトバチルス、酵母菌)



杉並スマートファームamitの中村 英治さん

12月~4月頃の出荷です。

マンゴーは3品種です。アーウィン、キンミツ、キーツです。7月~8月の出荷です。

### 農薬で体調不良になった経験から 有機農業に開眼

中村英治さんは、精密機械の製造会社ベテル(1973年創業)のグループ会社「ベテル未来」(オーラルケア製品)の元社員で、その「ベテル未来」に農業事業部を2021年に設立しました。当初は慣行栽培で始める予定でしたが、石岡市内の梨園で研修したおり、その農園で使用していた農薬によって体調不良を起こし、以来「無農薬」で始めることの大切さに気づきました。

業務拡大に伴い、農業事業部を新会社とし、有機農業で果物を栽培する「杉並スマートファームamit」を設立し、営農を開始しました。杉並と言っても東京都内の杉並ではなく、茨城県石岡市内の「杉並」地区が名前の由来です。ちなみにamitはa(アグリ)m(未来)i(ツナグ)t(トモニ)と農業の未来を、ともに繋いでいくという想いを込めています。

杉並スマートファームの共同経営者、鈴木英一さんはベテルの会長さんです。

ブドウとイチゴは2022年から、マンゴーは2023年から栽培し、2024年からは梨とうもろこしの栽培を開始しています。現在は露地の有機野菜栽培にも取り組んでいます。

ブドウの有機栽培については、2023年から茨城大学との共同研究にも取り組んでいます。

### 豊かな地域の自然を守るべく

石岡市は筑波山と霞ヶ浦に囲まれ、かつて果樹王国と呼ばれた果樹栽培が盛んな地域です。石岡市は2025年4月に「オーガニックビレッジ宣言」をしています。その石岡市でも近年は果樹園の衰退が目立ち、中村さんたちはそれら廃業した果樹園を引き取り、この石岡の豊かな自然を守るべく、この地域の農業での活性化を果樹の無農薬栽培で目指しています。農場では年齢問わず仲間たちが元気に現役で働いています。

近い将来、農福連携も視野に入れ、障がい者も働く農園施設を導入しています。

「杉並スマートファームamit」のオルターへの紹介は、自然栽培米農家「めだかの散歩」、杉本一詩さんからです。杉本さんはオルターカタログ10月1週号でご紹介予定です。